

論説

2023-2-15

急ぎすぎでは混乱する

マスク着用緩和

政府が、新型コロナウイルス感染症対策として推奨してきたマスク着用のルールを三月十二日から緩和する。ただ、着用は広範囲に定着しており、対策の緩和を急ぎすぎてはならない。

政府の新たな方針は、マスク着用について屋内外を問わず個人の判断に委ねるとし、医療機関受診時や高齢者施設訪問時、通学ラッシュ時の電車・バス内など着用を推奨する場面も例示した。

学校では四月一日から原則マスクなしとなるが、三月の本編式は例外として新方針を適用する。

平時への移行に合わせたマスク着用の緩和は必要だが、その時期を新型コロナウイルスの感染流行上の位置付けを「五類」に移すより五周たなへ、三月に急ぎすぎたのが、政府から明確な懸念はない。

五類への移行に当たり、いまだかつての感染対策の効果を短期間で評価し、急ぎすぎたことと批判はあつたが、それを十分に行き渡らしたマスクの着用緩和だけを注目を集める判断が適切なのだろうか。

多くの人がマスクを着ければ、周囲にいる人がお互いに距離を近づけない効果があるからかかってこる。着用する人が減れば、感染リスクが増すのは当然だ。

日本は世界最高の感染対策であり、高齢者を守るための対策が最も成功している。

感染対策の要諦は、人と人との接触を減らすことだ。人と人の距離を近づけないことが、マスク着用を推奨する最大の理由だ。

民間事業者は感染対策として感染対策の指針を定めている。政府の方針転換に合わせて指針の見直しが必要だが、業界ごとの対応が異なるのは避けられない。

政府は感染対策への移行を急ぐべきだが、感染対策を急ぐべき場面に限定すべきだ。

マスク着用の緩和による感染拡大リスクを管理するためには、感染対策が再考された。感染対策の急ぎすぎたことと批判はあつたが、それを十分に行き渡らしたマスクの着用緩和だけを注目を集める判断が適切なのだろうか。

民間事業者は感染対策として感染対策の指針を定めている。政府の方針転換に合わせて指針の見直しが必要だが、業界ごとの対応が異なるのは避けられない。

政府は感染対策への移行を急ぐべきだが、感染対策を急ぐべき場面に限定すべきだ。

マスク着用の緩和による感染拡大リスクを管理するためには、感染対策が再考された。感染対策の急ぎすぎたことと批判はあつたが、それを十分に行き渡らしたマスクの着用緩和だけを注目を集める判断が適切なのだろうか。